

主に従う人よ、主によって喜び歌え。主を賛美することとは正しい人にふさわしい。
詩編 33 編 1 節

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人 大 水 文 隆
〒852-8113 長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
TEL095(843)3869 FAX095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤 木 博 英 社
〒850-0852 長崎市万屋町 5-13
TEL095(821)2146 FAX095(821)2148



叙 階 式
3 月 17 日 (日) 15 時 浦上教会
・司祭叙階受階者
ヨ ハ ネ 中野健一郎 (本原)
・助祭叙階受階者
ミカエル 川端 志範 (滑石)

ベネディクト 16 世の辞任表明のことば



敬愛すべき兄弟である枢機卿の皆様。

わたしがこの枢機卿会議に皆様を招集したのは、3 人の列聖のためだけではなく、教会生活にとってきわめて重大な決断を皆様にお伝えするためでした。神のみ前で繰り返し良心を糾明した後、わたしは、高齢のために、わたしの力はペトロの奉仕職を適切に行使するにもはや耐えないことを確信するに至りました。

この奉仕職が、その本質的に霊的性格のゆえに、ことばと行いによってだけでなく、祈りと苦しみによって果たされなければならないことはよく承知しております。しかしながら、多くの急激な変化を伴い、信仰生活にとって深刻な意味をもつ問題に揺るがされている現代世界にあって、聖ペトロの船を統治し、福音を告げ知らせるには、肉体と精神の力がともに必要です。この力が最近の数か月に衰え、わたしにゆだねられた奉仕職を適切に果たすことができないと

自覚するまでになりました。そのため、このようなことを行うことの重大さをよく自覚した上で、わたしは完全な自由をもって次のことを宣言します。すなわち、わたしは 2005 年 4 月 19 日に枢機卿団がわたしにゆだねた聖ペトロの後継者であるローマ司教の奉仕職を辞任します。このため 2013 年 2 月 28 日午後 8 時以降、ローマの座、すなわち聖ペトロの座は空位となり、新しい教皇を選出するための教皇選挙が権限のある者によって招集されます。

親愛なる兄弟である枢機卿の皆様。皆様がわたしの奉仕職を支えてくださった愛と労苦のすべてに対し心から感謝します。そして、わたしのすべての至らぬところをゆるしてください。今、聖なる教会を最高の牧者であるわたしたちの主イエス・キリストにゆだねたいと思います。そして、聖母マリアに祈り願いたいと思います。どうかあなたの母としての気遣いをもって、新しい教皇を選ぶ枢機卿を支えてください。わたしに関しては、今後は祈りにささげた生活を通して聖なる神の教会に熱心に仕えるつもりです。(原文ラテン語)

主に従う人よ、主によって喜び歌え

長崎教区内において、今年、司祭叙階 50 周年 (金祝) を迎える司祭は 5 人、25 周年 (銀祝) は 2 人。もう一人のキリストとして神と人に仕えてきた彼らの声に耳を傾けながら、その労をねぎらい、喜びを分かち合いたい。

金 祝

イエスからイエスへ

ヨゼフ 三村誠一神父



私の司祭生活は、第 2 バチカン公会議とその歴史の浮き沈みとほぼ重なる。その公会議の精神 (発想) の神髄は、キリスト自身であると確信している。私の司祭生活のさまよいは、曲がりなりにもその追求に終始した歩みだったのではない。すべての人々、もつと的確に言えばいろいろな違い・区別に満ち満ちている人々をいのちを懸けて愛したイエスさまに「寄り添われて生きる」を、自他共への福音としてこの人

生を生きってきた 50 年であった。よな。

略歴 1936 年 10 月 23 日愛知県岡崎市生まれ。豊橋教会 (名古屋教区) にて受洗。植松教会出身。63 年 3 月 6 日植松教会にて司祭叙階。同年 4 月大司教区補佐書記、64 年三ツ山主任、66 年鮑ノ浦助任、68 年 9 月 69 年 4 月フイリピン・東アジア司牧神学研究所 (EAP I) 留学、69 年 4 月浦上助任、同年 12 月八幡町主任、73 年滑石主任、81 年植松主任、83 年鮑ノ浦主任、97 年浦上主任、2002 年相浦主任、08 年から大山主任。また、65 年 67 年純心中学・女子高等学校宗教科講師、74 年 4 月 08 年 4 月クルシヨ指導司祭、69 年 12 月 81 年 5 月教区広報委員会委員長、カトリック教報 (現「よきおとずれ」) 編集長を務めた。

聖摂理

ペトロ 平野 勇神父



時は去り、新しい時を刻む！
よい人に出会い、語らい、最善を尽くしたと思いつつも反省ばかり。叙階 50 年を迎えた今、あらためて振り返ると足跡が乱れているようです。でもどなたかがそっと消してくれているように痛感します。神の摂理と善意の方に支えられ、助けていただいた 50 年、司祭人生を生きることでできました。ただ感謝するのみです。支えていただき、助けていただいた、残された時を素直に生きたい！

略歴 1937 年 4 月 12 日長崎市長生まれ。黒崎教会出身。63 年 3 月 19 日大浦天主堂にて司祭叙階。同年 4 月鮑ノ浦助任、66 年三浦町助任、68 年中町助任、70 年上神崎主任、79 年曾根主任、86 年紐差主任、96 年福江主任、2002 年浦上主任、09 年から鹿子前主任。

感謝して再出発

ドミニコ 野下千年神父



これまでの 50 年におよぶ私の不十分な司祭職の奉仕を忍耐して受け入れてくださった主に、心から感謝です。この機会を主へのおわびと償いの時にしなければと思います。

第 2 バチカン公会議開幕とともに叙階され、刷新の活気に満ちた教会と共に歩んだ 50 年間は、若い司祭には幸せでした。主に招かれた司祭職の最終点検をなし、これから頂く余生を神と神の民への奉仕に献げ尽くしたい。

まずは回心から

セバスチアノ 堤 好治神父



大阪教区司祭として 7 年、長崎教区にお世話になって 4 年目を迎えています。まずは私個人の回心の必要性を自覚し、信者の皆さんと共に福音を読み生きたセブンステップによる小共同体の集いがよいと、常々考えています。神様の御助け、マリア様のお取り次ぎを願います。

略歴 1935 年 8 月 20 日和歌山市生まれ。屋形町教会 (大阪教区) にて受洗。出津教会出身。63 年 3 月 24 日大阪・玉造教会にて司祭叙階。同年 4 月大阪・玉造助任、65 年兵庫・尼崎助任、66 年大阪・香里助任、67 年兵庫・明石助任、71 年貝津主任、77 年 3 月大阪教区から長崎教区へ入籍、同年 4 月奈留主任、84 年浜串主任、92 年大野主任、99 年西木場主任、2006 年上神崎主任、09 年 4 月から福岡教区・呼子教会 (佐賀県) へ派遣。

ベネディクト 16 世は 2 月 28 日教皇職を退き、20 時 (日本時間 3 月 1 日午前 4 時) をもって使徒座は空位となった。教皇の退任は 2 月 11 日の枢機卿会議の中で発表され、高齢による体力の衰えが理由に挙げられた (上段左「辞任表明のことば」参照)。

2 月 28 日 20 時

使徒座空位

教皇庁広報部は、「ベネディクト 16 世は継続中の仕事を終えた後、バチカン内の隠棲修道院に居住する。新たな教皇を選出するコンクラーベは、通常ならば 3 月 15 日から 19 日の間に始まるが、枢機卿団が決定するため、現時点で開始日をい

うことはできない。復活祭までに新教皇が決定する」との声明を発表した。コンクラーベはバチカンのシステイナ礼拝堂で開かれ、使徒座空位開始日の前に 80 歳となった枢機卿は選挙権を持たない。高見 三司大司教は「道半ばで辞任されることは残念に思います。しかし今となっては、新しい教皇の選出に期待をし、引退を表明された教皇には、心もからだもゆとり休めて、末永く教会の成り行きを見守っていただきたい」と (全文は教区 HP に掲載) と語った。

略歴 1937 年 8 月 4 日長崎市長生まれ。三ツ山教会出身。63 年 3 月 19 日大浦天主堂にて司祭叙階。同年 4 月三浦町助任、66 年稲佐助任、68 年フイリピン・EAP I 留学、69 年 4 月浦頭教会付福江助任、同年 9 月浦頭主任、83 年カトリックセンター司牧企画室室長、要理教育研究所

主任、2006 年上神崎主任、09 年 4 月から福岡教区・呼子教会 (佐賀県) へ派遣。

し遂げて死なむと思ふ

ペトロ 宮川俊行神父



生きて 50 年間に満ちた。中学で習った歌「ころよく我にはたらく仕事あれ それをし遂げて死なむと思ふ」(石川啄木) を思い出しています。司祭職にお召しくださった恵み深い神と温かく支えてくださった皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。

略歴 1932 年 3 月 15 日茨城県土浦市生まれ。44 年 9 月 6 日大村教会にて受洗。植松教会出身。長崎東高、東京大学経済学部を経て、55 年 4 月長崎教区神学生として東京カトリック神学院に入学。57 68 年ローマ・ミュンヘンに留学。63 年 12 月 21 日ローマ・プロバガンダ神学校聖堂にて司祭叙階。69 年 3 月

銀 祝

これまでに感謝と陳謝

ヨゼフ 牧山強美神父



道半ば。これまで感謝と陳謝。これから

よく我慢してくださいました

ペトロ 中村倫明神父



多くの方から「25 年間、よく頑張りましたね」とありがたいお言葉を頂いていますが、本当は、「神様も信徒の皆様も、よく我慢してくださいましたね」と感謝の思いです。皆さん、ありがとうございます。

略歴 1962 年 3 月 21 日西海市生まれ。太田尾教会出身。88 年 3 月 19 日浦上教会にて司祭叙階。同年 4 月長崎大司教区神学校 (現長崎カトリック神学院) へ、89 年中町助任、91 年ローマ留学、94 年長崎カトリック神学院、99 年浦上助任、2002 年津津主任、05 年福岡サン・スルピス大神学院 (現日本カトリック神学院) 養成者、07 年植松主任。



信仰年連載企画
長崎はなぜ長崎を棄てるのか ⑥

信仰を典礼の中で

深く記念するために

日本カトリック神学院 白浜 満

はじめに

「信仰年」の中心となる「聖なる過越の三日間」が近づいていきます。わたしたちの信仰の土台である主イエスの死と復活の神秘を、典礼とくに感謝の祭儀(ミサ)の中で深く記念する奉仕について考えていただきました。

しかし、司祭叙階の恵みをいただいて以来、教区における宣教・司牧の現場の重荷を置き去りにして、いわば「長崎を逃げ出した」自分に、何が書けるのか自問しました。行き着いた心境は、わたしの信仰と召命を育んでくださった長崎教区の皆さんへの償いのために、また、編集長のご厚意に応えるために、このシリーズの導入として編集長が招いていた、主がお入り用とされる予らば(マタイ21・3)の霊性に近づきたいというものでした。長崎の教会の現場を知らず、机上での未熟な自分の想いをさらけ出すことで、新しい過越を実現するためにエルサレムの町に入城された主イエスのみ心に、少しでも触れる奉仕ができれば幸いです。

1 懐かしい思い出

「ブーッ、ブーッ、ブーッ」アンゼラスの鐘がない「天主堂」と書かれた木造の御堂の方から聞こえてくる、ミサ開始30分前のホラ貝の音です。五島の教会ならではの風情でしょうか。幼い頃のこの音色が、神の招きの声として、わたしの耳の中で懐かしくよみがえってきます。

座し、聖書の朗読と神父様の長い説教を聞いた後、しびれた脚で立つこともままならず、よろめきながら信仰宣言をしていました。先に聖体拝領を済ませて、自分の席でモゾモゾ落ち着かないでいると、聖体拝領に向かう大人の行列から親の手が伸びてきて、後頭部をパチーンと平手打ち。聖体拝領の恵みを静かに味わうようにという親心でしょうか。ミサの時には、子どもながらに神妙な気持ちになり、ミサの大切さが、からだ全体に染みこんでくるようでした。ミサの前後に、教会の庭で友達と一緒に遊んだことも、懐かしい思い出です。

2 幼児洗礼の恵み

小学校高学年になって、神父様の近くで侍者をさせていただいたことは、司祭召命の道へとわたしを導く神の計らいだったのかも知れません。「あなたのようなワルがよい神父になったね」と、お世話になったカテキスタのシスターに言われたものです。神父様方、シスター方、親たちが「丸」となり真剣に何か大切なことを伝えようとする工夫と熱気が強く感じられました。もし自分が幼児洗礼を受けていなかったら……、このような体験をすることはなかったでしょう。

期(時代)から教会が尊い伝統として受け継いできた幼児洗礼は、人に先立つ神の愛(「ヨハネの手紙4・10」)を示している恵みのしるし(秘跡)です。

幼児洗礼を受けたわたしは、キリストを信じる者の集い(教会共同体)の中で、自分の信仰、人格、召命を育んでいただきました。本当に涙が溢れてくるほど、感謝の思いでいっぱいです。先立つ神の愛と恵みを教え、伝えてくださった神父様方、シスター方、両親がいなければ自分の意志だけで洗礼を選び取ることは、到底、わたしにはできないことだったと思います。

3 初代教会の信者に学ぶ

教皇ベネディクト16世は、自発教令『信仰の門』(13)の中で、次のように教えています。「信仰によつて、弟子たちは最初の共同体を作りました。共同体は、使徒の教え、祈ること、感謝の祭儀を行うことを中心にして集まり、持ち物を共有して、困っている兄弟を助けました」(使徒言行録2・42・47参照)。この中に、信仰によつて、初代教会の信者たちが大切にして伝えてきた事柄を、3つにまとめることができるとはいえないでしょう。

① 共同体を作ること

初代教会の信者たちは「相互の交わり」(2・42)を大切に、共同体を作ることに取り組んでいました。それは、「二人または三人がわたしの名によつて集まるところには、わたしもその中にいるのである」(マタイ18・20)という主イエスの約束に根拠があると思

に入ることをはっきりと示すしるしです。」

成人洗礼であれ幼児洗礼であれ、いずれにしても洗礼の恵みは、人の権利によるものではなく、人の思いに先立ってそれぞれの人をふさわしい時に「信仰の門」へと招かれる、神の無償の愛によるものです。とくに初期の時代から教会が尊い伝統として受け継いできた幼児洗礼は、人に先立つ神の愛(「ヨハネの手紙4・10」)を示している恵みのしるし(秘跡)です。

② 感謝の祭儀(ミサ)を中心にする

洗礼の恵みをいただいたキリスト者の典礼の中で、その中心となるものが感謝の祭儀(ミサ)です。その中には、使徒言行録で示されていた使徒の教え(神のことば)を聞き、祈り、パンを裂くことが含まれています。

パンを裂く前に唱えられる感謝の祈り(奉獻文)の中で、パンとぶどう酒の聖別後に「司祭は会衆に向かって『信仰の神秘』と声高らかに宣言します。これに対して会衆は応えます。『主の死を思い、復活をたえよう。主が来られるまで。』」この応唱の中に、ミサの中で祝われている信仰の中心的な神秘が暗示されています。

ミサは、主の降誕(受肉)と過

越(死と復活)、そして主の再臨の記念です。聖体の拝領によつて、キリスト者はすでに主の再臨(主との決定的な出会い)を体験します。主イエスは、このような神秘の恵みにわたしたちを導き入れるために、最後の晩さんの席で弟子たちに、「これをわたしの記念として行いなさい」とお命じになりました。

た福音宣教することは困難です。そのために、主イエスは教会共同体を誕生させ、御父のもとから聖霊を遣わして強め、全世界へと派遣されました。教会共同体がより生き生きと自分たちの信仰を、典礼の中でとくに感謝の祭儀の中で深く記念しながら、社会における福音宣教に励むために、初代教会の信者たちが残した3つの模範は「連続性を持つ重要な要素」です。

- いづつ園
- ▼選任式 3月2日(土)10時半、浦上教会。
 - ▼信徒発見ミサ 3月17日(日)19時、大浦天主堂。
 - ▼聖香油ミサ 3月26日(火)10時半、浦上教会。

感謝

― 香典返し ―

- 長崎コレジオ
- 俵明美様(時津)
- 故アジシのフランシスコ 俵義猛様

- 長崎カトリック神学院
- 井上俊子様
- 故フランシスコ 井上俊雄様

- 川原忠信様(鮑ノ浦)
- 故クララ川原ソミ様
- 俵明美様(時津)
- 故アジシのフランシスコ 俵義猛様

右の方々からご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

どう生きるか『信仰年』

宮川俊行師による講演会

長崎大司教区は1月27日、カトリックセンターで教区司祭・宮川俊行師を講師に招き、講演会「どう生きるか『信仰年』」を現代と『カトリックの信仰』を開催。約200人が聴講した。

宮川師によれば、教皇ベネディクト16世は、現代教会には第2バチカン公会議が意図した真の刷新だけでなく、公会議文書の誤解や悪用に基づく有害諸現象も少なくない」と見ておられる。公会議開始後50年の今、信仰生活の自己点検を行

い、第2バチカン公会議の意図した真のあるべき教会像を確認し、これに忠実な信仰生活を始めよう」と信仰年を開催された。信仰年は、純粹な第2バチカン公会議的刷新による信仰生活の始まりの年となる。教皇は公会議の正しい理解のために「第2バチカン公会議」16文書と「カトリック教会のカテキズム」を勉強せよと勧めておられる。



宮川師は、自発教令「信仰の門」や信仰年開始祝賀ミサでの説教か

な教皇庁文書『主イエス』(カトリック中央協議会2006年)があるの、これを手引きに信仰の基礎的真理を確認する

福音の勧めに従って

長崎純心聖母会で初誓願式

2月11日、長崎市三ツ山町にある長崎純心聖母会本部聖堂において、高山三明大司教の主司式により、初誓願式ミサが行われた。多くの参列者が見守る中で、2人の修練者が初誓願を宣立し、聖堂内は感謝と賛美の祈りに包まれた。

祝賀会のあいさつの中で、宇野修道女は「誓願者として与えられた仕事

を誠実に果たしながら、幼い頃からあこがれていたやさしいシスターになりたいです。また、この信仰年に第一歩を踏み出すことのできる恵みを感謝しながら前進していきたいと思います」と語った。

初誓願宣立者
ルチア
田島 恵(長崎・神崎)
マリー・スピラン
宇野有紀(山口・防府)

石 碑
納 骨 堂
墓地工事
墓地分譲
(高尾・本原他)

なが さき せき ちよう
長崎石彫
ヨゼフ 岩永 博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町 6-17 岩永ビル

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ミカエル 溝口 美義
〒858-0926 佐世保市大湊町586
TEL(0956)47-4380

(医) 外尾内科医院

院長 ベトロ 外尾 明利
〒857-1152 佐世保市黒髪町34-4
TEL0956-33-5557

再び家庭を振り返る ⑨

教区家庭特別委員会 内野 洋平

家庭特別委員会長崎地区では、今回のシノドスに向けての準備と、また信仰年にあたって、森一弘司教様(前東京補佐司教)を講師としてお招きし、「信仰年 改めて罪人を招くために来られたキリストと向き合う」と題して研修会を企画しました。この記事を皆さんがご覧になる時はすでに研修会は終わっています(下段記事参照)、この研修会のねらいは、これからの教区の歩むべき展望を見いだそうという取り組みが行われている中で、本来の教会の在り方がどのようなものであるか、その源泉である福音としてのキリストの姿を通して改めてその本質を浮き彫りにすることから始めようという思いからでした。神の恵みである福音は教会を通して人々にもたらされ、信仰生活

が始まるわけですから、その教会の本来のあるべき姿から見つめ直すことは、その共同体の一員である私たち一人一人の信仰の在り方(姿勢)を振り返る機会になります。シノドスのアンケートの結果から、信仰生活を送る上でさまざまな問題を抱えている現実がある中で、根本的に共通して見えてくることは「信仰の喜び」ということが鍵になっているように思います。教会離れ、信仰の伝達および教育の問題、結婚・離婚、家庭内の諸問題など、価値観が多様化する現代社会のただ中であって信仰を生き、信仰を伝えることに困難さを感じている現実があります。

森司教を招き研修会

教区家庭特別委員会

をカトリックセンターで開催、350人余が参加した。



講師は東京教区前補佐司教の森一弘司教。信仰年 改めて罪人を招くために来られたキリストと向き合う」をテーマに、「本来の教会の姿と福音としてのキリストの姿」という視点から話が あつた。森司教は始めに、人が生きていくための条件としての大前提、「柔らかなで、棘のない、温かなものに包まれない」「肯定されたい」「人に(心に)ふれたい」「自分の可能性を開花したい」という4つを挙げた。そして、現代人は「何かをすべき」という世界に生きるあまり、この大前提を見失い、心は疲れ果てている。私たちはキリストに集められた一人の大切な「この私」であり、掛け替えないもの。信仰年に当たって大切なのは、互いに受け止め合い、そうしてくださる父がいることを信じ、その温かなものを互いに響かせ合って生きていること―との示唆を与えた。講話後にバネルディスカッションが行われ、充実した研修会を終えた。

貴い犠牲に感謝して

長崎教区評議会は、昨年12月1日から今年1月15日にかけてクリスマス募金の協力を呼び掛け、1月末日までに集まった約426万円を、昨年度の繰越金と合わせて次の被災地や困窮者の支援のために送金した。

分の可能性を開花したい」という4つを挙げた。そして、現代人は「何かをすべき」という世界に生きるあまり、この大前提を見失い、心は疲れ果てている。私たちはキリストに集められた一人の大切な「この私」であり、掛け替えないもの。信仰年に当たって大切なのは、互いに受け止め合い、そうしてくださる父がいることを信じ、その温かなものを互いに響かせ合って生きていること―との示唆を与えた。講話後にバネルディスカッションが行われ、充実した研修会を終えた。

二十六聖人殉教記念ミサ

2月3日、日本二十六聖人殉教記念ミサ(教区主催・長崎南地区評議会運営)が西坂公園で行われた。昨年6月10日、列聖150周年に合わせた設立された「日本カトリック長崎・西坂巡礼所」での初めての殉教記念ミサには、教区内外から約2400人が参列した。高見三明大司教はパウロの手紙(フィリピ1章)を引用しながら、「パウロが囚われながら、喜びのうちにあったのは、そのこと自体が宣教であることを知っていたから。殉教者たちが道中さらし者にされ、最期に命をささげたことも、単なる自分たちの救いのためではなく、愛の証しであり福音宣教だった」と説き、「信仰年を過ごす私たちの生活も、殉教者に倣い福音を伝えるものとしていう」と呼び掛けた。



また2月5日、長崎南地区司祭団主催による殉教記念ミサとゆるしの秘跡が、聖フィリッポ教会(西坂)で行われた。教区主催の記念ミサは日曜日に行われるが、「二十六聖人の祝日にも何か企画してほしい」という声にこたえて、9時から20時までゆるしの秘跡が行われ、2時間おきに6回のミサがささげられた。

「福岡コレジオ」開校

かねてより長崎教会管区司教会議で決定していた長崎コレジオ(長崎市南山手町)の福岡移転に關し、「福岡コレジオ」(福岡市中央区浄水通)がこの4月5日に開校することになった。

このたび、長崎支部修道院閉鎖にあたって多くの方々から、「寂しくなりますね」という声をかけていただいて、感謝と同時に、このキリシタン信仰の土地で皆様に温かく支えられながら宣教に励むことができた50年以上の日々の重さを、今さらながらのようにかみしめています。この土地で長く務めさせていただいた姉妹にとっては、胸が詰まる思いに違いありません。

1957年に山口愛次郎司教様(当時)の計らいで、大浦司教館に仮宿して家庭訪問をしていた2人の修道女が、浦上教会の当時主任司祭であられた中島万利神父様をお訪ねしたときの様子が証言として残っています。このとき、聖書に親しむ意味と、先祖の信仰を見直す意味

長崎での50年の歩みを感謝して

聖パウロ女子修道会 日本管区長 Sr. 三嶋 邇子

使徒的活動として協力して果たしたことなく、中島神父様の宣教への開かれた態度とご協力によって実現した様子が書かれています。

このような教区の理解と協力によって、家庭訪問を皮切りにして長崎での宣教が始まりました。

が2人組で車に乗って、長崎県の津々浦々まで宣教して廻りました。まだ修道女があちこちの家庭や教会などを訪問したり、書院やデパートでの仕事をするなど、考えられないときでした。その後、大浦書院やカトリックセンターでの奉仕をも務めさせていただきます。

2013 年度
聖書講座・信仰養成講座のご案内
教区生涯養成委員会

聖書講座 (木曜日 19:00 ~ 20:30)

月 日	講 師
5 月 16 日	高見三明大司教 (概論)
23 日	萩原 劭師
30 日	下窄英知師
6 月 6 日	萩原 劭師
13 日	下窄英知師
20 日	中濱敬司師
27 日	高見三明大司教 (公開講座)
7 月 4 日	萩原 劭師
11 日	下窄英知師
18 日	中濱敬司師

【テーマ】 聖パウロの書簡 【テキスト】 聖書
【講師が担当する内容】
・高見大司教：パウロの書簡と前期公開講座
・澤田豊成師：パウロの書簡の解説と後期公開講座
・萩原 劭師：ローマ書の解説
・下窄英知師：コリント I・II の解説
・中濱敬司師：旧約聖書からイエスのメッセージを読み解く

月 日	講 師
9 月 5 日	萩原 劭師
12 日	下窄英知師
19 日	中濱敬司師
10 月 3 日	萩原 劭師
10 日	下窄英知師
20 日	澤田豊成師 (公開講座)
24 日	中濱敬司師
11 月 7 日	萩原 劭師
14 日	下窄英知師
21 日	中濱敬司師

信仰養成講座・A 年度 (土曜日 19:00 ~ 20:30)

月 日	科 目	講 師
4 月 20 日	信仰年 (公会議公文書 ①)	中濱敬司師
27 日	神を知る道・神の啓示	山川 忠師
5 月 11 日	信仰年 (公会議公文書 ②)	中濱敬司師
18 日	神の啓示の伝達・聖書	山川 忠師
25 日	神への人間の応答	川口昭人師
6 月 1 日	信仰年 (公会議公文書 ③)	中濱敬司師
8 日	信条・父なる神	下窄英知師
15 日	三位一体・摂理と悪	川口昭人師
22 日	天と地 (創造)	川口昭人師
7 月 6 日	人 間	岩下和樹師
13 日	墮 罪	岩下和樹師
9 月 7 日	信仰年 (公会議公文書 ④)	中濱敬司師
14 日	イエス・キリスト (受肉)	頭島 光師
21 日	イエス・キリスト (死と復活)	頭島 光師
28 日	聖 霊	尾崎明夫師

【テーマ】 「信仰年」、信仰宣言、キリスト教の神秘を祝う
【テキスト】 カトリック教会のカテキズム

月 日	科 目	講 師
10 月 5 日	信仰年 (公会議公文書 ⑤)	中濱敬司師
12 日	キリスト者	尾崎明夫師
19 日	聖徒の交わり・マリア	谷脇誠一郎師
26 日	罪のゆるし	谷脇誠一郎師
11 月 2 日	教 会	岡 秋美師
9 日	教会の特徴	岡 秋美師
16 日	体の復活	尾高修一師
30 日	永遠のいのち	尾高修一師
12 月 7 日	第2バチカン公会議と近代日本の教会	高見三明大司教
14 日		高見三明大司教
1 月 11 日	要理教育	中濱繁喜師
18 日		中濱繁喜師
25 日	小共同体	中濱敬司師
2 月 1 日		長野宏樹氏
3 月 2 日	修了式	

